

2022年度事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日)

我が国の鶏卵消費量は国民一人当たり340個となり、且つ現在でも微増しつつある世界第2位の消費大国である。

しかし、2年間に亘り新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大し、日本でも緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が定められ、人の移動や経済活動が制限されたため鶏卵の消費が大きく減少した。また高病原性鳥インフルエンザも広範囲で発生し生産に大きな影響を与えた。このような向かい風の中にある鶏卵産業界であるが、今後の展開に不可欠なHACCP等食品衛生法に基づく安全性への取り組み、消費者に対する鶏卵の正しい知識の普及に取り組む事が肝要である。以上から2022年度事業計画は次の通りとする。

(1) HACCP関連事業の推進

- 1) 鶏卵の製造工程管理による安全・安心を確保するため2013年にGPセンターHACCP認証団体を立ち上げ、認証事業を開始したが、昨年6月に改正食品衛生法が完全施行されたことも追い風になり、認証を受けたGP数も45施設と大幅に増加した。2022年度も継続して拡充を図る。
- 2) HACCPに沿った衛生管理の実施が全てのGPに求められたため、HACCP手引書の周知を図る。
- 3) HACCP高度化計画及び高度化基盤整備の推進を図る。

(2) タマリエ検定の充実及び普及

タマリエ検定を開始して13年目を迎える。一ツ星、三ツ星、五ツ星タマリエと多くの合格者を輩出しているが、特に三ツ星タマリエ検定合格者は2,000名を超え、身近で鶏卵の正しい知識普及に貢献しているため、本年度も農林水産省の後援の下検定を開催する、東京会場(6月)、大阪会場(10月)、九州会場(11月)の予定。又、プロ中のプロを合格者としている五ツ星タマリエ検定も実施(一次選考5月、二次選考7月)。

(3) ヤングミーティングによる知識啓発情報発信事業

- 1) タマリエ検定の充実

たまごの素晴らしさをみんなに伝えよう！をスローガンに、合格者には鶏卵の正しい知識を伝える伝道師となることを期待する。

2) たまごニコニコ大作戦の拡大

- たまごニコニコ料理甲子園の実施
これからの食を担う高校生を対象に、いいたまごの日「たまごニコニコ料理甲子園」を開催し、たまご料理コンテストを通じてたまごの素晴らしさを若い世代に伝える。
- I P P Sに参加
4月27日～29日に開催されるI P P Sに参加して、鶏卵の正しい知識の普及や消費拡大を行う。4年振りに全国をタスキでつなぐチャリリレーを実施。4月28日にI P P S会場でスタートイベントの出陣式を行う。「毎日たまご2個でみんなニコニコ」のメッセージを携え、8月5日に豊橋でゴールを目指す。
同時に、全国の飲食店にこれはという目玉焼き丼をエントリーしてもらいオンライン投票でグランプリを決定する「全国目玉焼き丼グランプリ」も実施。新しいたまごの食べ方を提案。
- 鶏卵の正しい知識普及活動
農水省主催F C P（フード・コミュニケーション・プロジェクト）等に参画。

(4) 畜産物輸出協議会：鶏卵輸出部会へ参画

世界一安全・安心な国産鶏卵の輸出を促進し、鶏卵産業の継続的な発展に寄与する。

(5) 見学研修会・講演会の開催

(6) 同業他団体との消費拡大、安全・安心への取り組み、及びたまご知識普及会議(旧鶏卵知識普及会議)に参画し鶏卵の正しい知識の普及促進。

- たまご知識普及会議への参画。
- 「オムレツの会」オムレツの日の記念イベントへの参画
- 中央鶏卵規格取引協議会の市販鶏卵の品質検査への参画
- 「いいたまごの日」への取り組み
- 東京都卵業協会のたまごフェスティバルへの参画
- 鶏卵公正取引協議会への参画

(7) その他鶏卵に関わる事業